

シシトウガラシは土着天敵でアザミウマの発生を防ぐ

[研究のねらい]

シシトウガラシ栽培では使用できる農薬が少なく、重要害虫アザミウマ類の防除対策に困っています。そこで、アザミウマ類を食べる土着天敵ヒメハナカメムシの発生状況に注目し、4月定植の雨よけ栽培において土着天敵を利用するアザミウマ類の防除技術を確立します。

[研究の成果]

- ①雨よけ栽培シシトウガラシでは、アザミウマ類は5～6月に増加します（図1）。
- ②5～6月のアザミウマ類防除に選択性殺虫剤を使用すれば、6月以降に土着天敵ヒメハナカメムシが自然発生します（図1）。
- ③ヒメハナカメムシが増加するとアザミウマ類は少なくなります。ヒメハナカメムシ類はシシトウガラシに定着し、アザミウマ類を低密度に抑えつづけます（図1）。果実の被害はほとんど認められなくなります。

[成果の活用面・留意点]

- ①非選択性殺虫剤を使用するとヒメハナカメムシが減少し、アザミウマ類が急増します。したがって、他の害虫が発生した場合は選択性殺虫剤で防除し、ヒメハナカメムシを保護するように努めてください。



写真1 アザミウマの幼虫



写真2 アザミウマを捕食するヒメハナカメムシの幼虫

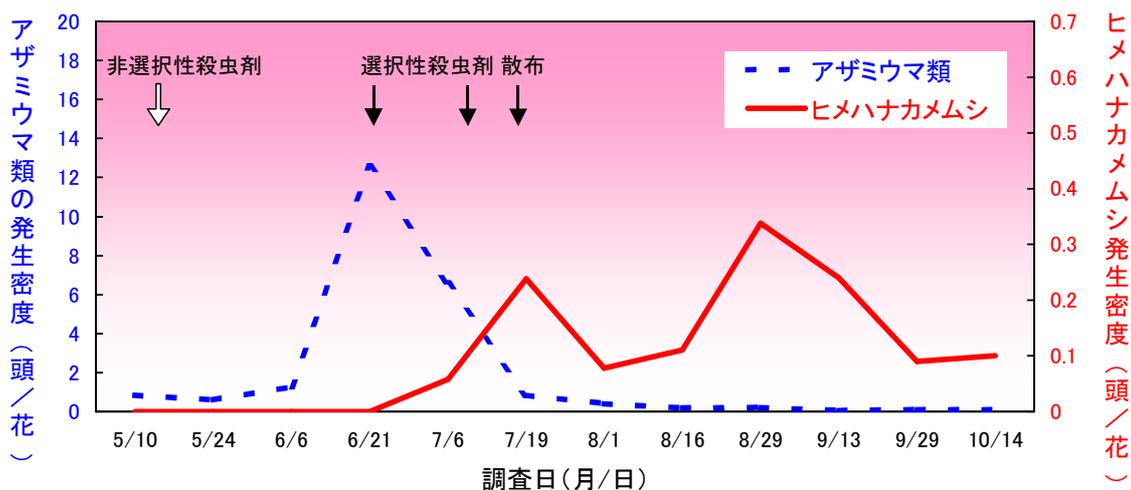


図1 土着天敵ヒメハナカメムシ類の自然発生によるアザミウマ類の発生密度抑制効果(2005年、有田川町)

実施年度：平成16～18年
担当者：井口雅裕、福嶋綾子